



編集・発行  
日蓮宗 能勢妙見山  
広報部  
〒563-0132  
大阪府豊能郡能勢町野間中  
電話 072-739-0329  
FAX 072-739-2883

# 国祷会・お火焚祭り

2月11日(祝)は国祷会が催されます  
世界全体の平和と豊穰を祈る行事です  
続いて大駐車場でお火焚祭りが執り行われます

## 〔2月の主な行事〕

☆節分会星祭 2日(日)節分当日から翌立春

一年間の善星皆来・悪星退散を祈ります

☆国祷会 11日(祝)10時開運殿にて法要

お火焚祭り 11日(祝)10時50分大駐車場

旧年のお札等や祈願矢を火に投じて祈ります  
祈願矢申し込みの方には大根炊き引換券あり

★清掃の日 15日(土)11時

★月例祈願法要 15日(土)13時

妙見様のご縁日祈願法要 開運殿にて厳修

★鷗様月例祭 22日(土)15時

●2月の写経会は取りやめます

## 〔3月の行事予定〕

☆報恩大祈禱会 2日(日)11時 水行・特別祈禱

12時半から大駐車場にて車両交通安全祈禱

★写経会 9日(日)11時

★清掃の日 15日(土)11時

★月例祈願法要 15日(土)13時

★鷗様月例祭 22日(土)15時

◎ご祈禱・御回向等のお申込はFAX・メールでも受け付けています

○諸行事は社会情勢により変更する場合があります

◎写経はご自宅でもできます お問い合わせ下さい

○送迎バス 奉賛会会員ご信者様の便宜を図り、

能勢電鉄妙見口駅から山上までの送迎車を用意。

ご希望の方は、必ず2日前までに電話で連絡願います。但しご希望に添えないこともあります。

### 心機一転

石原崇広

以前、妙見山で耳のご不自由な方が道を尋ねてこられました。私は、境内地図を身振り手振りでご案内しました。後で振り返るともつと出来たことがあったと思えてきました。

昨年5月より、川西市が行っている手話奉仕員養成講座に参加しました。参加者は中学生から高齢の方まで、和やかな雰囲気、好きなドラマの影響で興味を持たれた方など、参加理由は様々です。

当初は先生の手の動きの速さについていけず呆然とすることもありました。しばらくすると、手話を通してその人が歩んできた人生がダイレクトに伝わり、楽しく学ぶことが自然と出来るようになりました。

今では多くの方に周知されている手話も、昔は日常生活でも使うことを禁止されていたといえます。

昭和8年、世界に倣って日本でも、聞こえる人と同じように話すことを目的とした口話法（相手の口の形で読み解く）が教育現場で用いられました。しかし口話法では全てを読み取り聞き分け、理解することまでは困難でした。口話法だけに頼らなかつた生徒たちは先生に怒られないようおかげで、手話は廃れずにもう一度目の目を見ることになりました。

日蓮聖人は『諸經与法華経難易事』の中で「仏法よくやく顛倒しければ、世間もまた濁乱せり。仏法は体のごとし、世間は影のごとし。体曲れば影ななめなり」と説示されています。

私たちの暮らしを包括しているのが世間、いわゆる社会と思われがちですが、社会を動かしているのも一人の人間です。姿勢が悪くなれば自然と影も歪むように、私たちの信仰姿勢が社会を左右しているといつても過言ではありません。

### 報恩大祈祷会

昨年11月1日から今年2月10日まで日蓮宗加行所に寒中壱百日間の荒行を成満された荒行僧を迎えて、報恩大祈祷会が厳修されます。水行で身を清めたのち北辰閣2階ご宝前にて特別祈祷が修せられます。そのうち大駐車場へ直接、車両への修法加持にて車両交通安全特別祈祷があります。

### 《法華経に学ぶ現代》

純智庵

### 常に

昔耳にした鈍感力  
ちよつと真似して  
みませんか

### 罵詈雑言

### れども

### 嗔恚を

### 生ぜず

『常不軽菩薩品第二十』

言いたい奴には言わせとけ  
いちいち他人の言うことに尖つてばかりいたのでは  
心も身体も持ちません  
どこ吹く風と受け流す  
心のゆとりも大切と  
お経の中に説いています

### 知識まめ仏教

うきよ（憂き世・浮世）

「浮世の荒波にもまれる」などといい、この世の中、世間、あるいは人生をさして言うときに使われる。もとは「つらいこの世・無常の世」という意味で「憂き世」を使っていたという。中国の古典にみる、はかない生活を意味する「浮世」という語に、仏教的な生活感情が混じり合つて憂き世となつたと考えられる。

近世では泰平の世の中となり、ことに町人文化の台頭により、現実肯定の享乐的な風潮が出てくると、どうせはかないこの世なら楽しく生きようじゃないか、という思いから「浮世」と表すようになってきた。さらにまた当世風・現代的、また好色という意味も持つようになった。

浮世か憂き世か。釈尊はこの世を「一切皆苦」と洞察され、苦の根源を断ち苦を乗り越えた真の法楽を説かれた。